

重点戦略	明日を拓く成長戦略
プロジェクト	フードバレーとちぎプロジェクト

## 1 プロジェクトの概要

目 標	本県の良質で豊かな水や農林水産物を活かし、食品産業など地域に密着した内需型の産業を振興することにより、国内外の経済環境の変化に対応できる厚みのある産業構造の構築を図ります。
重点的取組	☆フードバレーとちぎの推進

## 2 成果指標等の状況

成果指標	基準 ・全国平均 ・全国順位	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	目標 H 2 7
①食料品製造業の付加価値額	1,766億円 (H20)  1,850億円 18位	1,835億円	1,957億円	2,046億円				1,854億円
出典：経済産業省 工業統計調査 県統計課 栃木県 の工業（工業統計 調査結果報告書） ※総務省・経済産 業省 経済センサス活 動調査	達成見込							

（注）目標達成見込の判断 : 概ね順調 : やや遅れている : 遅れている

### 【成果指標の分析】

- ① 産学官連携による新商品・新技術の開発研究や、フードバレーとちぎ農商工ファンド等各種事業を活用した商品開発等への支援により、食料品製造業における付加価値額は増加しており、目標を達成しています。

### 【平成24年度県民満足度調査結果】



※順位は、「満足」及び「どちらかといえば満足」と回答した割合をもとに順位付けした。（ ）内は昨年度の順位。

3 主な取組成果と課題

<b>【成 果】</b>
<p><b>☆フードバレーとちぎの推進</b></p> <p>○産学官連携による商品開発・技術開発、海外市場も視野に入れた販路開拓への支援、とちぎの強みを活かした企業誘致、農業をはじめとする関連産業の高付加価値化</p>
<p>≪主な取組≫</p> <p>①食品関連企業や農林漁業者、大学、試験研究機関等の連携による新商品開発・新技術開発支援の充実 産業技術センターの研究開発力を活かし、食品関連産業分野における新商品開発の実現化に取り組むとともに、機能性食品や付加価値の高い食品の開発、県産農産物利用拡大のため、フードバレーとちぎ推進協議会に研究部会を設置し、産学官連携による新商品・新技術の研究開発を行ったほか、「売れる」商品づくりのためのハンズオン支援として、無料相談会の開催（3回 38会員）や個別支援（25会員）を行いました。</p> <p>②フードバレーとちぎ農商工ファンドを活用した新商品開発や国内外への販路開拓に対する支援 フードバレーとちぎ農商工ファンド等による商品開発への助成（22件）や販路開拓への助成（2件）を行ったほか、都内において「とちぎのいいもの」まるごと商談会を開催し、食品関係のバイヤー（約250名）が来場し、88件の商談が成立しました。 また、県産品の販路開拓、風評被害払拭のため、香港での展示商談会への出展（7社・団体）や香港企業（5社）との商談等を実施しました。</p> <p>③食品製造関連企業誘致の推進 栃木県産業集積活性化基本計画に基づき、食品関連の企業立地計画3件、事業高度化計画3件を承認することにより、企業立地促進法に基づく低利融資の活用を支援しました。</p> <p>④農業者自らが加工・販売に取り組む農業の6次産業化の推進 6次産業化総合化計画を策定しようとする事業者に対し、国の設置する6次産業化プランナーと連携しながら策定を支援することにより、県内10件の農業生産法人等が計画の認定を受けたほか、新たな加工・販売などを開始する農業者等の取組を公募し、商品の試作や加工に必要な機器の整備など7件を支援しました。</p>
<b>【課 題】</b>
<p><b>☆フードバレーとちぎの推進</b></p> <p>○産学官連携による商品開発・技術開発、海外市場も視野に入れた販路開拓への支援、とちぎの強みを活かした企業誘致、農業をはじめとする関連産業の高付加価値化</p>
<p>＜商品開発及び販路開拓の充実・強化＞ 海外への販路開拓については、意欲的に見本市や商談会に参加している企業がある一方で、海外市場に関心はあるが、未だ取り組めていない企業も多い状況となっています。また、東アジア情勢の変化や本県産食品等の輸入規制が続く中、東アジア地域以外の地域への対応が課題となっています。 そのため、海外への販路開拓・拡大を目指す食品関連企業の掘り起こしと人材育成を図るとともに、海外展開を担う企業のネットワーク化や共同の取組を、関係機関と連携の下、支援する必要があります。また、高い経済成長が期待されるASEAN諸国等の消費市場拡大を見据えた対応を検討する必要があります。</p>